

# 北見工業大学学報

第 266 号 (2014 年 11 月号)

## 目 次

入 学 式	平成 26 年度秋季大学院入学式を挙行……………	3
研 究 助 成	平成 26 年度共同研究の受入状況……………	4
	平成 26 年度受託研究の受入状況……………	5
	平成 26 年度奨学寄附金の受入状況……………	5
人 事	人事異動……………	6
諸 報	父母懇談会(秋季・札幌、東京)を開催……………	7
	第 6 回北見工業大学・江原大学校(韓国)ジョイントシンポジウムを開催……………	8
	フセイン・ザナティさん(大学院博士後期課程)が ESD ユネスコ世界会議で講演……………	9
	防災・減災リレーシンポジウム「冬の防災・危機管理を考える」を開催……………	11
	高大連携協力に関する協定に基づく事業を実施……………	12
	図書館まつりへの協力……………	14
	「化粧品開発展-COSME Tech 2014-」アカデミックフォーラムへ出展……………	15
	朝日ビジネスマッチング 2014 へ出展……………	16
	平成 26 年度北海道地区国立大学法人等施設担当職員研修会を開催……………	17
	学生選書ツアーを実施……………	18
	平成 26 年度消防訓練を実施……………	19
	「北海道地域中小規模大学知的財産ネットワーク活動推進会議」及び 「北海道地域大学等知的財産部門連絡会議」に参加……………	20
少人数対象の文献検索講習会を実施……………	21	
北見市立中央図書館との連携……………	22	
メッセナゴヤ 2014 北海道ブースへ出展……………	23	

	平成 26 年度第 2 回安全衛生講習会を開催……………	24
	第 28 回北海道技術・ビジネス交流会(ビジネス EXPO)に出展……………	25
	シーズ・ニーズマッチングフェア with 金融機関に出展……………	27
	アグリビジネス創出フェア 2014・ アグリビジネス創出フェア in Hokkaido へ出展……………	28
	社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議を開催……………	29
	平成 26 年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式……………	30
	「研究ユニット研究報告会」を開催……………	31
情 報 公 開	財務諸表等の開示……………	32
日 誌	10 月・11 月……………	33

## = 入学式 =

### 平成 26 年度秋季大学院入学式を挙行

(総務課)

平成 26 年度秋季大学院入学式が、10 月 1 日(水)午前 10 時から、本学第 2 会議室で行われました。

高橋信夫学長から、留学生を含む 7 人の入学が許可された後、「健康に十分留意し、それぞれの専門分野で意欲を持ちながら勉

学に勤しみ、有意義な学生生活を送ることを期待している」旨激励の言葉がありました。

引き続き、総務課長から役職員等の紹介が行われました。

入学者は次のとおりです。

#### 大学院博士前期課程

専攻名	入学者数(人)
電気電子工学専攻	1
情報システム工学専攻	1

#### 大学院博士後期課程

専攻名	入学者数(人)
生産基盤工学専攻	2
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	1
医療工学専攻	2



新入生の皆さん



お祝いの言葉を述べる高橋学長

## = 研究助成 =

### 平成26年度共同研究の受入状況

平成26年11月28日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
機械工学科	助教	石谷 博美	PCVガス除湿システム基礎研究	株式会社ワークム北海道
機械工学科	教授	山田 貴延	潜熱蓄熱によるローエクセルギー活用の研究 (小型蓄熱槽の研究)	北海道ガス株式会社 技術開発研究所
社会環境工学科	准教授	川口 貴之	表面波探査を用いた季節変化に伴う地盤剛性変化の把握	北見土木技術協会
社会環境工学科	教授	川村 彰	高速道路における走行快適性に関する共同研究	株式会社高速道路総合技術研究所
電気電子工学科	准教授	高橋 理音	風車による系統制御技術の開発	株式会社日本製鋼所 室蘭製作所
バイオ環境化学科	准教授	佐藤 利次	工学連携推進型地域6次産業人材育成事業との連携による商品化研究	企業組合 北見産学医協働センター
社会環境工学科	准教授	中村 大	積雪寒冷環境が土中埋設管に及ぼす種々の影響についての研究	北海道ガス株式会社 技術開発研究所
社会連携推進センター	センター長	川村 彰	地域材循環システム構築に関する研究	企業組合 北見産学医協働センター
社会連携推進センター	センター長	川村 彰	工学連携推進型地域6次産業人材育成事業の効果に関する研究	企業組合 北見産学医協働センター
電気電子工学科	教授	柏 達也	電磁波測定環境における電磁波の反射、吸収の解析	E&Cエンジニアリング株式会社

平成26年度累計77件

## 平成26年度受託研究の受入状況

平成26年11月28日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目	委託機関	所要経費
社会環境工学科	准教授	館山 一孝	氷海開発を支援するための高精度氷況観測技術の開発	独立行政法人海上技術安全研究所	円 2,554,200
機械工学科	教授	大橋 鉄也	疲労と破壊の科学/多種・多数界面とき裂の相互作用シミュレーション	独立行政法人科学技術振興機構	2,300,000

平成26年度累計8件

## 平成26年度奨学寄附金の受入状況

平成26年11月28日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究者	寄附目的	寄附者	寄附金額
バイオ環境化学科	准教授	岡崎 文保	CNT修飾Si粒子の研究	戸田工業株式会社	円 100,000
電気電子工学科	教授 准教授	田村 淳二 高橋 理音	出力変動電源の大量導入による系統影響評価と安定化技術に関する研究	北海道電力株式会社	300,000
社会環境工学科	教授	三上 修一	構造物の診断技術開発に関する研究	日本仮設株式会社	800,000
	学長	高橋 信夫	学生に対する支援	北見工業大学後援会	300,000
社会環境工学科	教授	中山 恵介	波の計測を中心とした流れ場の解析に関する研究推進	株式会社豊水設計	600,000
マテリアル工学科	助教	古瀬 裕章	「透光性多結晶セラミックを用いた次世代レーザー加工用光アイソレータの開発」に対する研究助成	公益財団法人カシオ科学振興財団	1,000,000
社会環境工学科	准教授	中村 大	補強土壁の凍上・融解耐久性に関する実験研究のため	東京インキ株式会社	250,000
電気電子工学科	助教	梅村 敦史	2014年度パワーアカデミー研究助成「萌芽研究」研究件名「風力発電制御システムの発電機モデル追従制御に関する研究」	パワーアカデミー	1,000,000
社会環境工学科	准教授	白川 龍生	道路の冬期気象特性に関する研究	株式会社構研エンジニアリング	500,000
社会環境工学科	准教授	中村 大	補強土壁の凍上・融解耐久性に関する実験研究のため	岡三リビング株式会社	250,000

平成26年度累計41件

= 人事 =

人 事 異 動

(総務課)

○大学発令

発令年月日	現職名	氏名	新職名(発令事項)
26.10.31	工学部教授	中谷 久之	辞職(長崎大学へ転出)
26.11.1	財務課副課長(係長兼務)	齊藤 敏浩	財務課副課長
〃	学生支援課専門職員	内山 彰	財務課係長
〃	財務課事務職員	森原 早紀	学生支援課事務職員

## = 諸報 =

### 父母懇談会(秋季・札幌、東京)を開催

(学生支援課)

例年開催している「父母懇談会(秋季・札幌、東京)」を、札幌会場は10月5日(日)北海道大学学術交流会館、東京会場は10月25日(土)学術総合センターを会場としてそれぞれ実施しました。

札幌会場には、87組の保護者が参加し、近藤和雄学生後援会会長からは、後援会の活動状況が報告されました。続いて田村淳二副学長から挨拶の後「本学の教育及び就職状況等」について説明があり、様々な情報が保護者に提供されました。

東京会場には、82組の保護者が参加し、

全体説明会において、田村副学長から札幌会場と同様の説明がありました。

札幌、東京いずれの会場とも、個別面談では、修学状況、就職等について保護者から質問が出され熱心にやりとりが交わされました。

参加した保護者からは、「毎年懇談会を開催していて、大学の状況が良くわかりました。」、「進路等について気軽に相談できる大学であることを今後も願っています。」等の声が寄せられました。



個別面談の様子



全体説明会の様子

## 第6回北見工業大学・江原大学校(韓国)ジョイントシンポジウムを開催

(社会連携推進センター)

韓国にある江原大学校と本学の第6回ジョイントシンポジウムを10月10日(金)に本学で開催しました。本シンポジウムは、江原大学校と本学が平成18年に包括協定を締結し、相互の連携を密にすることを目的に、お互いの大学を会場に隔年で開催しています。今年の本学が当番校であり、「地域資源を活かした技術開発の現状」をテーマに開催し、東京農業大学も参加して、それぞ

れの大学から、計7つの発表が行われました。

農・食関連の技術開発や人材育成への取り組みについての非常に貴重な情報共有の場となり、それぞれの国や地域が抱える共通の課題に対して積極的に大学同士が連携することにより、新たな展開に向けた関係を構築するきっかけとなるシンポジウムとなりました。



野矢副学長による開会挨拶



江原大学校 崔教授による講演



## フセイン・ザナティさん（大学院博士後期課程）が ESD ユネスコ世界会議で講演

（情報システム工学科）

本学大学院工学研究科博士後期課程学生のフセイン・ザナティさんは、母国エジプトのミア村での教育実践を通して取り組んでいる研究テーマ「ICTを利用して生徒が自主的に学習する環境を構築する研究と国際的な実践」について、第41回日本賞教育コンテンツ国際コンクール及びESDユネスコ世界会議で発表しました。

日本賞教育コンテンツ国際コンクールは、「世界の教育番組の質的向上と国際的な理解・協力の増進」という目的でテレビ、ビデオ、映画などの教育コンテンツを審査する、NHK主催のコンクールです。41回目を迎える今回は、10月15日（水）から21日（火）に東京で開催され、62カ国から320件の応募がありました。フセインさんの応募した「生徒たちが積極的に自主開発できる学習環境の提供を目指した実践ビデオ」は、ビデオ部門の国際交流基金理事長賞候補のファイナリスト5件に選出され、最終審査会で発表を行いました。惜しくも理事長賞受賞には至りませんでした。このときの発表内容が高く評価され、主催者であるNHKからESDユネスコ世界会議での招待講演を依頼され

ました。

ESDユネスコ世界会議は、持続可能な開発のための教育（ESD）をテーマとして、11月10日（月）から3日間、名古屋で開催されました。皇太子殿下もご臨席され、世界各国から教育省庁を代表する75大臣を始め、約1000名が参加しました。フセインさんは閣僚級会合の後に開催されたフォローアップ分科会合で、各国教育関係閣僚、国際協力機構理事長、NHK国際放送局長等の出席者に対し、エジプト・ミア村での教育実践を中心に45分間の研究報告を行いました。内容はもちろんデジタル撮影技術も評価され、メディアセンターから閉会式でのスライドショーの作成を依頼されました。皇太子殿下、モナコ王妃、ユネスコ事務局長、文部科学大臣などを写真撮影し、編集したものを閲覧していただく等、緊張を強いられながらも貴重な体験をしたようです。

本研究の内容及び実践活動が主要な国際会議で評価されたことは、本人の研究成果はもちろんのこと、北見工業大学のアピールにも貢献されました。



日本賞教育コンテンツ国際コンクールでのパネルディスカッション  
(左がフセインさん、右は通訳のラッセル・グドール氏)



ESDユネスコ世界会議にてユネスコ事務局長イリナ・ボコヴァ氏と

## 防災・減災リレーシンポジウム「冬の防災・危機管理を考える」を開催

(研究協力課)

10月17日(金)本学第1総合研究棟多目的講義室で、平成26年度防災・日本再生シンポジウム「北海道／防災・減災リレーシンポジウム ー冬の防災・危機管理を考えるー」を開催しました。

本シンポジウムは北海道大学、室蘭工業大学及び本学が主催するもので、札幌、室蘭、北見とそれぞれの地域を会場にリレー方式で開催し、多面的な討論を行うものです。本学会場のシンポジウムでは、管内はもとより札幌や根室等から行政機関の防災担当者や防災に関わる企業の担当者等、約120人が参加し、「冬の防災」について考えました。

初めに、本学社会環境工学科 高橋清教授、網走地方気象台 岸隆幸観測予報管理官、北海道大学公共政策大学院 原田賢一郎教授の3氏による基調講演が行われました。高橋教授からは、災害後、時間の経過とともに住民の防災意識が風化する調査結果の紹介や、年少時からの防災教育の大切さについて指摘がありました。岸管理官からは、防

災教育について気象庁と教育・行政機関の連携に課題があるとお話いただきました。原田教授は、市町村合併により組織が大きくなったことに伴い、防災担当者が他の業務を兼務する現状を踏まえ全庁的な防災体制の構築が大事であることや、冬季の避難誘導では複数の避難経路の確保を検討すべきであると訴えました。

基調講演後に行われたパネルディスカッションでは、各行政機関の連携の実効性向上には平時からの顔の見える連携や、省庁の枠を超えた防災教育の実行の可能性等、冬季の防災について活発な意見交換が行われました。

会場は定員100人を超えた参加者で満席となり、行政機関や企業の防災担当者が専門家からの情報を強く求めていることがうかがわれ、「寒冷地」をキーワードのひとつに掲げる本学として、地域に対して今後も同様な情報発信を行う必要性を感じました。



パネルディスカッションでの討議



防災担当者等参加者で満席の会場

## 高大連携協力に関する協定に基づく事業を実施

(学生支援課)

北見工業大学と北海道遠軽高等学校との高大連携協力に関する協定に基づき3つの事業を実施しました。

### ★ピアサポート事業

本事業は、本学の学生が高校生に学習指導を行うことにより指導方法を体得することを目的としています。今年度は10月18日(土)に学部学生・大学院生16名が遠軽高校を訪問し、30名の生徒に対して数学の学習指導を行いました。

ピアサポートの学生は、それぞれ2～3名の生徒をつきっきりで指導するとともに、勉強方法や大学生活についての相談にも対応する等、密度の濃い指導ができました。指導を受けた高校生からは、わかりやすい説明で本当にためになったとの声が上がっていました。

本事業を通して、ピアサポートの学生は学習指導方法を体得し、今後の自身の進路等を選択するうえで貴重な体験をすることができたものと思います。



ピアサポートの様子

### ★研究室訪問

10月21日(火)に遠軽高校の生徒11人が本学社会環境工学科を訪問しました。事前学習として9月30日(火)に本学教員が遠軽高校に出向き、今回は実際の体験を行うために訪問したものです。

当日は、11時から16時30分まで、講義、研究現場の見学、実験等を行い大学での学びを体験しました。参加した高校生は、実際に大学の教育・研究に触れたことで今後の進路について視野を広げることができたのではないかと思います。



研究室訪問の様子

★異校種連携事業

11月14日(金)に遠軽高校で開催された「異校種連携事業」に、本学では3講座を開設しました。本事業は、遠軽高校が小・中・高校の異校種間を結ぶキャリア教育の推進を目的として実施しているもので、本学は高大連携事業の一環として参加しています。

遠軽町内の小学6年生及び中学2年生130人が『極低温を体験しよう!!』、『「温

度」って何だろう？ー温度と熱の関係』、『液状化実験ボトルを作ってみよう』の3つのテーマに分かれてそれぞれ実験を行いました。

参加した小・中学生にとっては、普段触れることのない大学の研究に触れることができ、科学に対する興味を持つとともに、学習意欲への大きな刺激となったものと思います。



異校種連携事業の講義の様子



液体窒素を使った実験の様子

## 図書館まつりへの協力

(情報図書課)

10月19日(日)、北見市立中央図書館の第19回図書館まつりが行われました。図書まつりは、同図書館がボランティアの方々の協力により開催しているものです。本学からも毎年数名の学生がボランティアとして参加していますが、今年は、ブック・プロジェクトのメンバー4名も参加しました。

図書館まつり当日だけではなく、古本市で使用する古本の整理や会場の設営等、事前準備の段階から様々な作業に参加し、汗を流しました。当日は、古本市での会計係、絵本の読み聞かせ、会場での案内等を行いました。

参加したメンバーの感想は「普段は触れ

合うことのできない小さな子やご年配の方と絵本の読み聞かせ等を通じて交流を深めることができ、学内だけでは決して体験できないものだった。」「ボランティアに参加されていた地域の方々もやる気に満ちており一緒に活動していてとても楽しかった。」「肉体労働が多く大変だったが、本の種類の区別など勉強になることも多かった。」とのことです。

今後も、地域の読書推進に関わるイベントに参加する等して、ブック・プロジェクトの活動の幅を広げて欲しいと期待しています。



図書館まつりの様子

## 「化粧品開発展-COSME Tech 2014-」 アカデミックフォーラムへ出展

(社会連携推進センター)

10月20日(月)～22日(水)に、東京ビッグサイトで開催された「化粧品開発展-COSME Tech 2014-」でのアカデミックフォーラムに出展しました。

初めての出展となる今回は、オホーツク地域で生産される地域資源、ハマナスなどの活用を目指した取り組みを紹介しました。その中で、バイオ環境化学科 新井博文准教授が取り組む「ハマナス花卉由来加水分解型タンニンによるアレルギー抑制」について、本学大学院工学研究科博士後期課程医療工学専攻 金澤勉さんにより、プレゼンテーションとポスターでの研究紹介が行われました。

本展示会では、過去最多 542 社 が出展し、約 2 万人の来場がありました。北見工業大学のブースは、10月20日(月)のみの出展となりましたが、多くの方々に足を運んでいただきました。工科系の大学が出展している例は多くなく、本学の第1次産業に関する教育・研究の展開を紹介することにより、地域連携・社会貢献への取り組みについて、本学の特徴を強く意識していただける場となりました。シーズ・ニーズのマッチングの他、大学広報としても価値のある場となりました。



「化粧品開発展-COSME Tech 2014-」アカデミックフォーラム会場の様子

(写真左)ポスター展示会場 (写真右)プレゼンテーションとポスター発表を行った金澤さん

## 朝日ビジネスマッチング 2014 へ出展

(社会連携推進センター)

10月21日(火)に東京ドームホテルで開催された「朝日ビジネスマッチング」に、昨年引き続き出展しました。朝日信用金庫と独立行政法人科学技術振興機構は大学などの研究成果を産業界に移転し、産業振興、イノベーション創出につなげていくことを目的とし包括協定を締結しました。本フェアはその活動の一つとして開催されています。

会場には、朝日信用金庫がネットワークを持つ地域の中小企業が数多く参加し、130の企業、全国の50の学術機関・大学が出展しました。WEB出展を含めると昨年度より100以上多い約600社となる大規模な展示会となりました。会場では、本学を含む学術機関によるショートプレゼンテーションも行われました。

本学からは、機器分析センター 大津直史准教授が取り組む「骨親和性を持つチタン材料を得るための新表面処理技術」について紹介しました。ショートプレゼンテーションにおいても、大学紹介をはじめ、それらの研究や取り組み及び展示の見どころ等を紹介し、多くの方々にブースに足を運んでいただきました。

一日限りのフェアでしたが、来場者の多くを占める中小企業の熱意を感じることができました。昨年度の出展がきっかけとなって受けた技術相談が商品開発へと進む等、本イベントは新しいネットワークが生まれる場となっています。北見工業大学の技術を紹介する有効な場のひとつとして、今後も本フェアに積極的に参加していく計画です。



朝日ビジネスマッチング2014北見工業大学展示ブース及びショートプレゼンテーション



## 平成 26 年度北海道地区国立大学法人等施設担当職員研修会を開催

(施 設 課)

平成26年度北海道地区国立大学法人等施設担当職員研修会が10月23日(木)・24日(金)の両日、本学を当番大学として開催されました。

本研修会は、道内の国立大学及び国立高等専門学校における施設関係業務の共通の諸問題を討議し、併せて施設担当職員の知識、技術、技能の交流を図り、施設関係業務の円滑な運営に資することを目的として道内国立大学法人による持ち回りで行われているものです。

研修会では、文部科学省文教施設企画部計画課 木村貴彦課長補佐を講師としてお招きし、「国立大学等施設の安全対策等について」と題し、非構造部材の耐震対策の推進等について具体的事例を交えながら講演いただきました。その後、「災害時における施設担当職員の役割」をテーマとして全体討議、翌日には各専門分野に分かれてグループ討議が実施され、参加者による活発な意見交換が行われました。



講演中の木村課長補佐



全体討議の様子

## 学生選書ツアーを実施

(情報図書課)

図書館では、10月24日(金)、平成26年度第2回「学生選書ツアー」を実施しました。

事前にポスター等により参加学生を募集し、学部学生及び大学院生が9人参加しました。

学生たちは、趣味や資格、一般図書等、各々興味のある図書を選んだ後、その本を選んだ理由をカードに記入し、館内の展示コーナーに選んだ図書とカードを合わせて展示しました。



参加した学生たち



選書する学生



展示コーナーの様子

## 平成 26 年度消防訓練を実施

(施 設 課)

10月28日(火)午後2時から、震度5強の地震による火災発生を想定した消防訓練を実施しました。

本学機械工学科2号棟の研究室を仮想火元として、第一発見者である学生の通報から始まり、学科教員による初期消火及び残留者の確認、職員による避難誘導及び負傷者の搬出を実施しました。

訓練には機械工学科の学生・教員及び職員等、約60名が参加しました。消防訓練中は全員真剣に訓練に取り組み、各班それぞれ

の役割にそった速やかな行動で訓練にあたりました。

続いて、機械工学科2号棟前で消火器の使用説明を受け、水消火器を使った消火訓練を行いました。

訓練終了後の高橋信夫学長からの挨拶では、本年1月17日(金)に本学マテリアル工学科で実験による爆発を原因とした火災があったことにふれ、火気類を使う際には十分注意するよう話があり、消防訓練は終了しました。



水消火器を使つての消火訓練



高橋学長からの挨拶

## 「北海道地域中小規模大学知的財産ネットワーク活動推進会議」及び 「北海道地域大学等知的財産部門連絡会議」に参加

(知的財産センター)

知的財産センターは、10月28日(火)・29日(水)に旭川医科大学を当番校として旭川市まちなか市民プラザで開催された、「北海道地域中小規模大学知的財産ネットワーク活動推進会議」及び「北海道地域大学等知的財産部門連絡会議」に参加しました。

このネットワークは、独立行政法人工業所有権情報・研修館の「広域大学知的財産アドバイザー派遣事業」の一環として、旭川医科大学が中心となり広く道内の大学に呼びかけて結成されたものです。参加大学の知的財産活動の効果と効率を、ネットワークを活かして拡大・向上させることを目的としています。

北見工業大学も、その母体となった前身組織結成以来の構成員として、本ネットワークの主要なメンバーとなっています。当日は本学及び旭川医科大学に加え、帯広畜産大学、ほこだて未来大学、札幌医科大学、酪農学園大学、北海道科学大学、これに特許庁、北海道経済産業局、独立行政法人工業所有権情報・研修館、一般社団法人発明推進協会、独立行政法人科学技術振興機構、

北海道大学等関連組織・機関が集い、盛会のうちに終わりました。

10月28日は、旭川医科大学 尾川直樹知的財産マネージャーの司会で全体会議を開催し、各大学における知的財産戦略について意見交換するとともに、次年度以降の全体活動について議論しました。また、三重大学 西村訓弘副学長(社会連携担当)による「地方大学による地域経済活性化 ―北海道型産学連携の提言―」と題した講演も行われました。

10月29日は、各大学の特徴を活かした知的財産の創出・活用を促進する活用系ワーキンググループ会議と知的財産事務の水準向上を目指す事務系ワーキンググループ会議とに分かれて議論しました。

会議やネットワークを運営していくためには多大な努力を続けていくことが必要ですが、知的財産活動の水準向上に向け、このネットワークを発展させていく意義を確認する会議になりました。



広域大学知的財産アドバイザーの発表

## 少人数対象の文献検索講習会を実施

(情報図書課)

図書館では、冬休み前まで、研究室や友人同士等少人数を対象とした文献検索講習会を実施しています。

年度当初は学科のクラス単位で行ってきた文献検索講習会ですが、少しでも多くの学生が気軽に受講できるよう、10月より学生が希望する時間で申し込む少人数対象の講習会の受付をはじめました。

講習会は、初回の10月2日(木)から希望に

応じて随時実施しており、受講した学生からは「わかりやすい内容で役に立った。」「講習会で学んだデータベースを今後も使ってみたい。」との意見が多数寄せられています。

レポート作成や卒業研究等、学生の学修活動に役立てるよう、次年度以降も文献検索講習会を継続していきます。



講習会の様子

## 北見市立中央図書館との連携

(情報図書課)

図書館では、11月4日(火)から11月30日(日)まで「大学生に読んでほしい本」の展示を実施しました。

この展示は、今年4月に実施しました「北見市立図書館選書ツアー」展示に続き、北見市立図書館との連携協力によるものです。前回は本学学生が選書しましたが、今回は北見市立中央図書館の職員に本学学生に読

んでもらいたい図書、特に本学ではほとんど所蔵していない児童書の選書をお願いしました。

懐かしさに足を止めた利用者もいて、多くの方に楽しんでいただいた展示になりました。今後も展示企画等、様々な方法で北見市立図書館と連携していきます。



展示の様子

## メッセナゴヤ 2014 北海道ブースへ出展

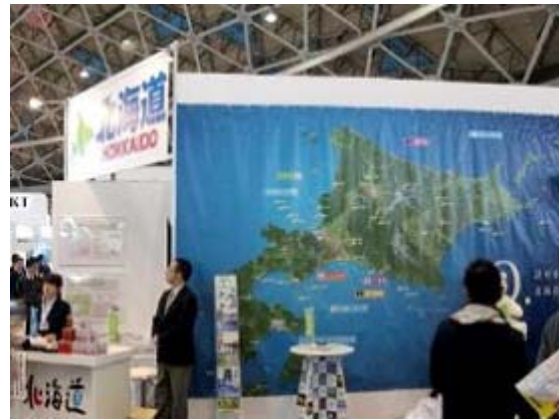
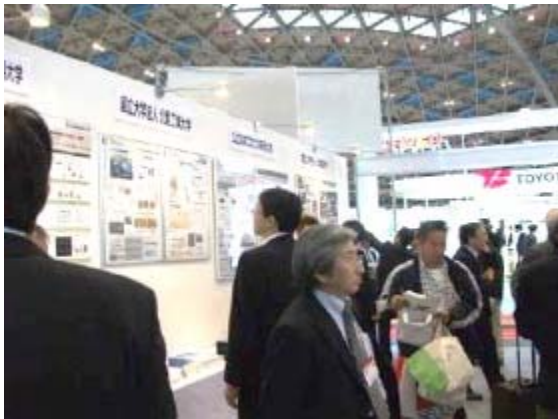
(社会連携推進センター)

11月5日(水)～8日(土)の4日間、名古屋市国際展示場(ポートメッセなごや)を会場としてメッセナゴヤ2014が開催されました。本フェアは中京圏を中心とした自動車関連企業、名古屋地域のモノづくり企業が出展参加する日本最大級の異業種交流展示会です。今年は、過去最多となる850社・団体が出展しました。

北海道では、北海道内企業や学術機関の技術・製品等の広報を目的として、昨年に引き続き会場内に北海道ブースを設け、自動車関連技術、医療、エネルギー、環境関連技術に焦点をあてた展示を行いました。本学も昨年に続き、この北海道ブースの医療技術分野に出展し、電気電子工学科 橋本

泰成准教授の「脳と身体を回復させるリハビリテーション工学技術」を紹介しました。北海道ブースでは、札幌市をはじめとする7市が出展し、各々の自治体をPRしました。フェアの会場には4日間で6万6千人の来場があり、北海道ブースへも多くの方に足を運んでいただきました。

本学は中京圏出身の学生が多く、北見工業大学の展示には求人目的の企業や毎年学生が就職している企業からの来場がありました。本学は今回のような中京圏での技術紹介を行う十分な機会を持っておらず、本フェアは大学広報の面からも貴重な場となりました。



メッセナゴヤ2014北見工業大学展示ブースと北海道ブース会場の様子

## 平成 26 年度第 2 回安全衛生講習会を開催

(総務課)

11月6日(木)、本学第1総合研究棟多目的講義室にて平成26年度第2回安全衛生講習会が行われ、教職員約30人が参加しました。

実際に体を動かすことで今後の健康の保持・増進を図ることを目的にストレッチ講習を実施した第1回に続き、今回はメンタルヘルスと生活習慣病予防の2つのテーマで行いました。

まずは、北見市保健福祉部健康推進課成人保健担当係長の沼岡寿恵氏より「職場のメンタルヘルス・ストレス予防」と題してお話いただきました。現代社会の様々なストレスから心の病気にかかる人が増えていること、早期の発見と対応が重要であると共に、予防には仕事、休息、運動、遊び等普段からバランスの良い生活習慣を身に付けること、仕事と自分の良い関係を築くため、無理せず気楽に出来ることから始め

ること等を、ストレス自己チェックを交えながら説明いただきました。

次に、同国保医療課特定健診担当の田中小百合氏より「検査結果を活かそう！若々しい血管と血液を保つ食生活」と題してお話いただきました。内臓や脳に栄養を運ぶ役割を担う血管と血液を老化させないように、体の状況把握の手段として健康診断が最も簡単であること、診断結果で自分の状態を知り、体重・血圧・中性脂肪・血糖・脂質・尿酸等の値を下げる食生活が大事であるとの説明がありました。

時折ユーモアを交えた分かりやすい内容に、参加した教職員は熱心に聴き入りながら、メンタルヘルスに対する認識と対処法への理解を深めるとともに、食生活の改善等を通じた生活習慣病予防に関する認識を新たなものにしていました。



講演する沼岡氏



講演する田中氏



## 第 28 回北海道技術・ビジネス交流会（ビジネス EXPO）に出展

（社会連携推進センター）

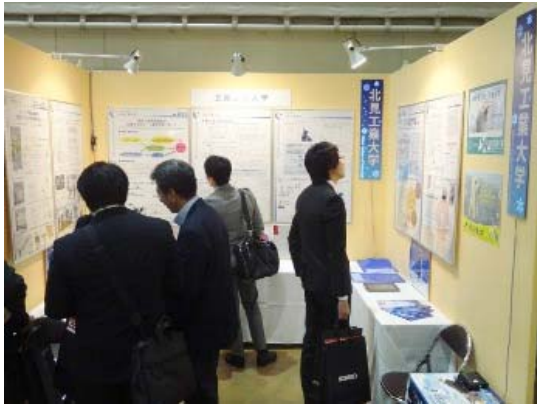
11月6日（木）・7日（金）に、アクセスサッポロを会場に開催されたビジネスEXPO「第28回北海道技術・ビジネス交流会」に出展しました。本イベントは、道内企業をはじめとした「産」・「学」・「官」による製品・技術等の情報がこの交流会で一堂に会し、北海道の経済活性化や産業振興のため、新たなビジネスチャンスの創出を目指す北海道最大級の規模の技術マッチングイベントです。今年は約2万人の来場がありました。

本学は「学術・試験研究機関展示ゾーン」にて、大学の紹介とともに本学が取り組む研究ユニットから「冬季スポーツ工学研究ユニット」に関連する研究の紹介を行いました。日本人の骨格に適応した競技用スキーブーツの開発、カーリング競技における選手のスウィーピングスキル向上支援技術及び戦術支援技術について紹介し、多くの来場者に興味を持っていただきました。

本イベントでは、毎年様々な講師の方をお呼びして、講演会やビジネスセミナーも開催しています。今年のビジネスセミナーでは、「ものづくりセミナー『北海道のものづくり技術が日本を支える！上村愛子さんトークショー』」が開催されました。上村さんは、スキーモーグルの日本代表選手として活躍されましたが、上村さんが履いていたスキーブーツには、本学機械工学科鈴木聡一郎教授の技術が活かされています。

セミナーは鈴木教授による司会で進められ、上村さんと、長年上村さんのスキーブーツを手がけ現在も鈴木教授と共同研究を実施している株式会社レグザムの林末善氏との3人での対談が行われました。セミナーでは、上村さんのこれまでの選手時代の話を中心に話が進められ、終盤では、上村さんが履くこととなった鈴木教授の技術を活かしたブーツ開発について、そして、本学の冬季スポーツ工学研究ユニットについても紹介しました。セミナー会場には、入りきれないほどの200人を超える来場者がありました。

本学の出展ブースは、このセミナーの終了後にも多くの来場をいただきました。このイベントには、出展者や来場者の立場で本学の卒業生も数多く参加しています。本学ブースへは仕事の面での興味だけではなく、懐かしさで立ち寄るなど、卒業生が母校へ愛着を持っていることを知ることができました。また、学生の就職・求人の話をしていただいた卒業生もいました。本イベントは、研究紹介や大学紹介とともに在学生のためにも価値ある場であることを再認識し、また、このようなイベントでの大学広報の重要性を確認する場ともなりました。



ビジネスEXPO北見工業大学出展ブース



鈴木教授



上村さん（写真左）、林氏（写真右）



ビジネスセミナー「ものづくりセミナー 『北海道のものづくり技術が日本を支える！  
上村愛子さんトークショー』の様子

## シーズ・ニーズマッチングフェア with 金融機関に出展

(社会連携推進センター)

11月6日(木)・7日(金)の2日間、アクセスサッポロを会場に開催された「シーズ・ニーズマッチングフェアwith金融機関」で、本学の技術シーズを紹介しました。

本フェアは、地域の研究機関が生む成果を地域ニーズの解決に役立たせることを目的とし、本学を含む道内の大学・高専・公設試・信用金庫が開催しているイベントです。今年で2回目となる今回は、同時開催中のビジネスEXPO「第28回北海道 技術・ビジネス交流会」への約2万人に上る来場者を活かし、集客方法に昨年とは異なる新たな工夫を凝らしての開催でした。

道内の各研究機関から14のシーズが紹介され、本学からは情報システム工学科 早川吉彦准教授が、「X線CTイメージングにおける統計的画像再構成法の様々な応用」と題し研究成果を報告しました。早川准教授によるプレゼンテーションの終了後には、関係する研究者とのディスカッションが行われました。また、他機関からのプレゼンテーションの中には、本学の研究者との連携が期待されるシーズも見出されました。新たなネットワーク構築の可能性が予感される、貴重な技術広報の場となりつつあることを実感したイベントでした。



研究している医療診断用の各種画像処理技術について紹介する早川准教授

## アグリビジネス創出フェア 2014・ アグリビジネス創出フェア in Hokkaido へ出展

(社会連携推進センター)

11月12日(水)～14日(金)に東京ビッグサイトで開催された「アグリビジネス創出フェア2014」、11月28日(金)・29日(土)にサッポロファクトリーで開催された「アグリビジネス創出フェア in Hokkaido」の両フェアに出展しました。本学では、平成18年度から工学的素養を持つ土木・建設業の技術者を主な対象とし、農業関連分野に参入する人材を育成する「工農教育事業」を進めています。その取り組みがきっかけとなり、これらのイベントに平成19年度より継続して出展しています。

今回は、工農教育の事業紹介と、工農連携研究ユニットで実施している4つの研究についてパネル展示にて紹介するとともに、プレゼンテーションをそれぞれの会場で実施しました。東京ビッグサイトの会場では、全国の大学、民間企業、独立行政法

人等、147機関が出展し、3日間で約3万2千人の来場がありました。本学のブースにも多くの方々に足を運んでいただきました。また、北海道の会場では、産業界だけではなく、一般の方の来場も多数ありました。

両イベントは、「食・農」に関連した地域性を強く出すことができる場ですが、工科系の大学が出展している例は多くありません。東京ビッグサイトの会場では、北海道からの工学系大学の出展は本学のみでした。本学の第1次産業に関する教育・研究の展開を紹介することにより、地域連携・社会貢献への取り組みについて、本学の特徴を強く意識していただける場となりました。シーズ・ニーズのマッチングだけでなく、大学広報としても価値のある場であると感じました。今後も積極的な参加を考えています。



アグリビジネス創出フェア2014（東京ビッグサイト）北見工業大学出展ブース



アグリビジネス創出フェア in Hokkaido（サッポロファクトリー）

## 社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議を開催

(研究協力課)

11月21日(金)、本学を会場として北見工業大学社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議を開催しました。本会議は、オホーツク地域の経済発展を目指したもので、周辺自治体・大学・公設試験場・包括連携協定締結機関等の関連部署担当者に「産学官連携推進員・協力員」を委嘱し、産学官連携に関する議論・情報交換等を行っています。

今回は、「市町村訪問からの新たな地域連携の創出」及び「国等からの事業採択に向けた地域／各大学の連携による提案の可能性」をテーマとして、活発な議論が行わ

れました。各自治体や金融機関等支援機関から、新たな手法による大学からの情報発信の要望や、参加・協力できるイベント及び行事の可能性について等の具体的な意見が出され、貴重な議論の場となりました。また、自治体の特色を生かした事業についての情報提供は、他の自治体委員の方に非常に有意義なものになったと思います。

本学は今後も、提供いただいた貴重な意見の具体化に向け、オホーツク地域の各自治体との意見交換を通して、地域の課題解決に向けて取り組んでいきます。



会議の様子

## 平成 26 年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式

(総務課)

平成26年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式が11月25日(火)午前11時から第2会議室において挙行されました。

高橋信夫学長から被表彰者に対し、表彰

状の授与並びに記念品の贈呈が行われ、永年にわたる本学への貢献に対する感謝とお祝いの言葉が贈られました。

被表彰者は、次のとおりです。

北見工業大学永年勤務者表彰被表彰者 (50音順)

30年勤務者

氏名	所属学科等
菅原 幸夫	機械工学科
田村 淳二	理事
照井 日出喜	共通講座
羽二生 博之	機械工学科
山田 貴延	機械工学科

20年勤務者

氏名	所属学科等
阿部 良夫	マテリアル工学科
奥山 圭一	技術部
川村 みどり	マテリアル工学科
岸本 恭隆	電気電子工学科
三波 篤郎	情報システム工学科
長谷川 稔	技術部
山下 聡	社会環境工学科
渡邊 眞次	マテリアル工学科



永年勤務者表彰式被表彰者

## 「研究ユニット研究報告会」を開催

(研究協力課)

11月27日(木)、本学多目的講義室において「研究ユニット研究報告会」を開催しました。

本報告会は、研究推進機構の9つの研究ユニットが実施しているプロジェクト研究の内容を全学的に紹介することで、同機構における研究活動の活性化及び教職員の研究に対する意識の向上を図り、本学の研究を推進することを目的としております。今回は昨年度に引き続き2回目の開催となりました。

研究報告会では、吉田孝研究推進機構長の挨拶に続き、機械工学科 柴野純一教授(医工連携研究ユニット)、マテリアル工学科 平賀啓二郎教授(太陽光エネルギー変換・効率利用ユニット)、社会環境工学科 山下聡教授(表層型メタンハイドレート研

究ユニット)、社会環境工学科 中山恵介教授(水環境工学研究ユニット)、電気電子工学科 小原伸哉教授(地域分散エネルギー研究ユニット)、バイオ環境化学科 佐藤利次准教授(工農連携研究ユニット)、社会環境工学科 亀田貴雄教授(雪氷研究推進ユニット)、機械工学科 鈴木聡一郎教授(冬季スポーツ工学研究ユニット)、情報システム工学科 榮坂俊雄教授(複雑進化系設計)が発表を行いました。

各研究ユニットが実施している特色ある研究の報告に参加者は熱心に耳を傾けており、活発な質疑応答が行われました。

最後に吉田研究推進機構長が講評を述べ、研究報告会は終了しました。

今回の研究報告会には、学内の教職員及び学生45名が参加しました。



吉田研究推進機構長の挨拶



鈴木教授(冬季スポーツ工学研究ユニット)の発表

## = 情報公開 =

### 財務諸表等の開示

(財 務 課)

国立大学法人法に基づき、平成 26 年 9 月 25 日付けで文部科学大臣の承認を受けた平成 25(第 10 期)事業年度の財務諸表(附属明細書を含む)及び関係書類を、本学ホームページ([http://www.kitami-it.ac.jp/public\\_relations/outline/pubdoc/pubdoc\\_about\\_kit.htm](http://www.kitami-it.ac.jp/public_relations/outline/pubdoc/pubdoc_about_kit.htm)1)に掲載しましたので、お知らせします。



## = 日誌 =

### 10 月

- 1日 秋季入学式、社会連携推進センター運営会議
- 6日 オホーツク産学官融合センター事務局会議、北見工業大学地域コア運営委員会
- 17日 教務委員会
- 18日 高大連携事業「ピアサポート」
- 21日 学生委員会、遠軽高校研究室訪問
- 22日 教育研究評議会、役員会、利益相反マネジメント委員会、編入学試験（第2次募集）出願受付（～28日）
- 23日 平成26年度北海道地区国立大学法人等施設担当職員研修会（～24日）
- 24日 学生選書ツアー
- 28日 平成26年度消防訓練

### 11 月

- 4日 推薦入試・帰国子女特別入試出願受付（～10日）、社会連携推進センター運営会議、オホーツク産学官融合センター事務局会議、北見工業大学地域コア運営委員会
- 5日 教務委員会
- 12日 不正防止対策室会議、推薦入学者選抜実施委員会、入学者選抜委員会
- 14日 遠軽高校異校種連携事業
- 19日 教育研究評議会
- 20日 発明審査委員会、学生委員会
- 25日 推薦入学者選抜実施委員会
- 27日 研究ユニット研究報告会、入学試験実施委員会
- 28日 推薦入試